

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗



株式会社ガイアート
H28-29国道4号幸手(3)電線共同溝工事
作業所長 **出口 良一**

1995(平成7)年、株式会社ガイアートに入社。
以来、道路修繕工事や道路舗装改良工事を経験し、現在に至る。

日々の作業を記録に残し、予習・復習を行う

新社員だったときに初めて担当した現場の話です。私は道路修繕工事の現場に配属され、2車線を4車線に拡幅するための道路舗装工事を行っていました。排水用の側溝となるL型街渠を布設するため、先輩社員と一緒に測量し、街渠の基準となる丁張を設置しました。数日後、自分が設置した丁張を基準に作業員の方が街渠の布設作業を進めます。コンクリート打設まで終わったところで布設状況を確認すると、まったくははずの街渠が丁張した区間20mにわたって徐々に曲がっており、道路幅員が狭まっていることに気がきました。大慌てで所長に相談し、街渠を取り壊して再布設をすることに。大雨のなかの取り壊し作業となってしまい、作業員の方には本当に申し訳なく感じました。工期が迫っていたので余裕がなく、先輩社員に丁張を再確認してほしいことを言い出せずにいたのです。

次いで2件目の現場となる道路維持工事の現場でのことです。切削オーバーレイ(切削機による維持修繕工法)を行うべく、夜間に1車線を通行止めにして舗装工事を行いました。事前に先輩社員と工事の工程・数量を確認してから作業指揮に挑みましたが、規制時間である早朝5時近くになっても工事が完了しません。時間内に完了できないため、規制時間を延長させてほしい旨を発注者と警察に連絡し、なんとか工事は完了させましたが、自分のせいで交通渋滞

を引き起こし多くの方にご迷惑をかけてしまいました。経験が無いなか初めて作業を指揮する際には、少なめの数量でサイクルタイムを把握してから徐々に数量を増やしていくべきだったのです。

これらの失敗から学んだことは、作業を確認する余裕を持つことが大事だということです。先輩方と打合せした作業内容をもう一度自分で整理し、無理がない内容かどうかを見極める。また、まったく同じ現場というものは無いので、経験を蓄積することが重要になります。日々の作業を記録として残すことを心掛け、作業時間はどれくらいかかったのか、改善できる箇所はどこだったかなどを毎日記録し、次に同じような工事を行うときの参考にする。記録をまとめたノートは後々自分を助けてくれる仕事の相棒になります。

その後もいろいろな現場を経験しましたが、作業記録を残すことは欠かさず行い、次の作業に入るときには記録を見ながら作業想定をする。予習・復習を続けることで、八王子舗装工事では優良技術者表彰をいただきました。現在は現場をまとめる立場になりましたが、部下には「事前の作業想定を怠らず、毎日作業記録を残すように」と指導しています。若い人たちには、日々の作業を無駄にすることなく経験値を上げていくという意識を持ってほしいですね。